

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に根ざし、地域と共に歩み、地域に愛され信頼される学校をめざす。

- 1 自らの夢と志を育み、高い目的意識のもと自身の進路を実現し自立できる生徒を育成する。
- 2 規範意識の醸成・自他敬愛の精神の涵養を通じ、感性豊かな人間性を持つ生徒を育成する。
- 3 地域との連携・交流を深め、社会に貢献できる多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、生徒自らが学び考える授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施により、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。また、教員相互の公開授業・授業見学や生徒による授業アンケート等を活用し「授業力の向上」を図る。さらに ICT を活用した授業改善についても研究を進め、1人1台端末の活用を実践する。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度、授業理解度を、令和6年度にはそれぞれ83% (R1:67%, R2:77%, R3:79.3%)、85%以上 (R1:80%, R2:83%, R3:82.1%) にする。

イ 成績中位者層・成績不振者層に対する教科で統一した指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。

※生徒向け学校教育自己診断における授業集中度、家庭学習度を毎年2%以上引き上げ、令和6年度にはそれぞれ91%以上 (R1:82%, R2:86%, R3:87.0%)、47%以上 (R1:38%, R2:43%, R3:42.6%) にする。

(2) より高い進路実現のためのさらなる学力向上に取り組む。

ア 自己決定に対する「より高い課題」を設定し、より高い進路目標の実現に向かって努力する生徒を育成する。

イ 個々の目標や能力に応じた進学講習体制の充実により、生徒の進路実現に取り組む。

※共通テスト出願者数を引き上げ、100名以上をめざす。(R1:58名, R2:94名, R3:71名)

令和6年度までの3年間で、国公立大学3名 (R1:1名, R2:0名, R3:3名)・難関私立大学20名以上 (R1:14名, R2:20名, R3:18名)の合格(現浪合わせて)をめざす。

(3) 図書活動の推進により、将来への夢や志を育み自身の進路を探索させる。

ア あらゆる教育活動における言語活動を通じて、生徒に「生き方・あり方」や「夢・希望」、「志」を考える機会・環境づくりを図る。

イ Graded Readers を活用した英語科 Book Report の取組みを通じ、英語に慣れ親しみ英語検定やGTEC にチャレンジする意欲を持たせる。

ウ 国語科読書マラソンの取組みを継続し、読書好きの生徒を育てるとともに言語活動の充実を図る。

※図書館の年間貸し出し数6000冊以上をめざす。(R1:7878冊, R2:3790冊, R3:4154冊)

GTEC の受験者数を650名以上とする。(R1:392名, R2:648名, R3:568名)

2 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成

(1) 新型コロナウイルス感染症対策の徹底と学校活動の維持継続

学校活動の継続を大前提にしつつ、感染症対策については校内体制を整備し、組織的に個別対応できるようにする。

(2) 生徒の規範意識を醸成するとともに個々の生徒への支援体制を充実させる。

ア 基本的生活習慣の確立のうえに規範意識の高い自主性にあふれた生徒集団づくりをめざす。また、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができるよう教育相談体制の充実を図る。また、「いじめ対策委員会」を中心に、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度を毎年1%以上引き上げ令和6年度には70%以上 (R1:68%, R2:71%, R3:63.5%) に、担任以外に気軽に相談できる先生の存在肯定率を毎年2%以上引き上げ令和6年度には55%以上 (R1:46%, R2:49%, R3:48.1%) にする。また、人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率を95%以上 (R1:90%, R2:94%, R3:94.6%) に引き上げ、継続をめざす。

(3) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度を92%以上 (R1:89%, R2:90%, R3:91.1%) に、部活動満足度を毎年1%以上引き上げ、令和6年度90%以上 (R1:82%, R2:88%, R3:62.2%) に、また部活動加入率を毎年2%引き上げ、令和6年度には75%以上 (R1:65%, R2:70%, R3:70%) にする

イ ノークラブデーの徹底により働き方改革を推進する。

(4) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育、人権教育の充実を図る。

ア 高大・企業連携を盛り込んだ3年間のキャリアプランを確立させるとともに、地域や同窓会などの外部人材を積極的に活用し社会に貢献できる人材を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会の肯定率、進路情報満足度を毎年1%以上引き上げ令和6年度にはそれぞれ90%以上 (R1:85%, R2:86%, R3:88.5%)、95%以上 (R1:83%, R2:88%, R3:93.6%) にする。

イ 日ごろの教育活動を通じて、自尊感情を育て他者への思いやりにあふれる生徒を育成するとともに3年間を見通した人権教育計画に基づき、その充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会度を毎年1%以上引き上げ令和6年度にはそれぞれ、90%以上 (R1:85%, R2:91%, R3:85.9%)、85%以上 (R1:79%, R2:85%, R3:80.7%) にする。

3 地域連携・交流の確立と伸長

(1) 地域交流のさらなる拡大と深化を図り、社会に貢献できる生徒の育成に取り組むとともに外部への情報発信力をさらに強化する。

ア 支援学校、近隣のこども園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動を通じて、共生社会の担い手となる生徒を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりの多さ肯定率、近隣の学校との交流の多さ肯定率を令和6年度にはそれぞれ、30%以上 (R1:33%, R2:31%, R3:24.1%)、30%以上 (R1:27%, R2:26%, R3:23.6%) にする。

イ HP や学校説明会・中学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】 2年生の中だるみは見られるものの全体的に向学校性の高さと学校への信頼度の高さは維持できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学してよかった 89.5% ・学校行事の満足度 93.2% ・進路情報提供満足度 93.2% ・人間関係のトラブルが少なく、落ち着いた環境 92.9% ・いじめ等で困っていることがあれば真剣に対応してくれる先生の存在 89.8% <p>また、生徒指導納得度は指導の統一を図り、20ポイント以上大きく改善された。</p> <p>一方、課題としては、1人1台端末の活用度が学年によってばらつきがあり、一層の授業改革に取り組まなければならない。授業の満足度や理解度は高いが、家庭学習時間は伸びておらず、学ぶ力の育成にまだまだ改善の余地があると考えます。</p> <p>部活動の停滞やアルバイト率の上昇、スマートフォンの使用頻度の高さ等家庭学習時間を圧迫する要因を整理し、さらなる学習習慣の定着を図る。</p> <p>コロナ禍で後退した地域や近隣校との交流は、回復傾向を示すもののまだ低調である。</p> <p>【保護者】 肯定度が高い項目は昨年度と同じであった。 教育方針や学校活動に対する肯定度の高さは維持できている。 肯定度が大きく下がった項目はないが、授業内容の一層の充実や施設設備面の環境整備に努め、信頼される学校であり続ける。</p> <p>コロナ禍における学校活動への参加がかなわず、その項目については評価が低い。徐々に回復傾向にあることに期待する。</p> <p>【教職員】 新学習指導要領の本格実施に伴い、生徒や保護者のニーズに応えられるよう、教科内での話し合いや指導計画の検討が行われていることへの肯定度は大きく上昇した。また、人権教育や教育相談体制についても肯定度は上がっていて、組織としての対応ができるようになってきた実感があらわれている。</p> <p>課題としては、教科を横断した授業改善の取り組みやICT活用の実践事例の共有を図っていく。また、人権教育において、参加型学習の機会を検討し、互いを尊重する人権感覚の醸成に努める。</p>	<p>第1回（令和4年7月20日） 令和3年度学校評価について確認 令和4年度学校経営計画について承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校との交流が減ってしまっているが、コロナ禍においてもなんとか交流を再開する方法はないのか。 ・家庭学習時間が改善傾向にあるとはいえ十分ではない。進路結果が伸びてきている中でさらに生徒の進路に対する納得感を持たせることができるよう共通認識を持って取り組んでもらいたい。 <p>第2回（令和4年11月30日） スクールミッション策定について承認 学校経営計画の進捗状況について報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動入部率は、年度当初のデータであり、途中退部者等の推移を追跡して定着率を見るべきではないか。 ・ホームページの活用度については、更新回数判断基準となってくる。スマートフォン対応かどうかは再生回数の伸びにつながる。 <p>第3回（令和5年2月22日） R4学校経営計画評価案、R5計画案について協議を行い、承認 授業アンケート結果や学校教育自己診断結果を報告し、改善に向けた提言 スクールポリシー策定スケジュールの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営評価案について、自己評価が厳しいのではとの指摘があった。中期的目標は3カ年計画であり、その数値目標に対して今年度は中間期であることを説明し、昨年度比で伸長していても現時点における自己評価であることを理解していただいた。 ・授業アンケート結果や学校教育自己診断における1人1台端末の活用度から、まだまだ授業改善の取組みにばらつきがあるように感じる。引き続き、子どもたちにとって有効となる授業改善をお願いしたい。 ・学校に対する肯定度の高さを維持していることは、誇らしいことであり、関係者としてうれしく思う。ぜひ継続した努力をお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 「わかる授業、生徒自らが学び考える授業」をめざした授業改善への取組み	(1) 教科担当や単学年別ではなく、教科ごとに3か年計画を策定し、担当する学年の教科科目の到達目標を設定し、生徒の力を伸ばし、進路実現につなげる。	(1) 「山高3か年計画」の策定	(1) 各教科で取り組んでいる。 次年度に向けて、共有する機会を持ち、教科を横断して目標を共有する。
	ア 習熟度別・少人数展開 授業の充実	ア・生徒一人ひとりの学力を伸ばすため、「数学」(第1学年)、「英語」(第1学年・第2学年)の習熟度別・少人数展開授業の充実を図る。	ア・生徒による授業アンケート、授業進度・難易度の3教科平均肯定率 85%[82.2%] 数学1年：75%[67.7%] 英語1年：90%[88.2%] 英語2年：92%[90.7%]	ア. 授業アンケート結果より 授業進度・難易度の3教科平均肯定率 82.3% (△) 数学1年：79.3% (○) 英語1年：85.8% (△) 英語2年：81.9% (△)
	イ 公開授業・授業見学、授業アンケートを活用した授業改善の推進 成績中位者・成績不振者層の指導充実	イ・運営委員会、教務部が主体となり授業公開週間を定め(9月～11月)、グループによる相互授業見学・相互評価を実施する。 ・生徒による授業アンケート(年2回)結果による分析と課題把握を行い、授業改善を進める。 (各教科へのフィードバック) ・各教科・学年が連携し宿題や予習・復習等の課題を設定することで家庭学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。加えてアルバイトをしている生徒の状況を把握し、家庭学習定着度との相関関係をみる。	イ・相互の授業見学を教員1人につき、年間2回以上行う。 ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度82%[79.3%] 授業理解度85%[82.1%] ・生徒向け学校教育自己診断における家庭学習時間1時間以上の生徒：53%以上[50.3%] 家庭学習習慣ゼロの生徒22%以下[24.7%]	イ. ・相互の授業見学：平均1.3回(△) ・学校教育自己診断結果 授業満足度：81.6%(△) 授業理解度：82.1%(△) 家庭学習時間1時間以上の割合 平日44.2%(△) 家庭学習習慣ゼロの割合 平日28.6%(△)
(2) より高い進路実現への取組み	(2)	(2)	(2)	
イ 目標・能力に応じた進学講習体制の充実	イ・進路指導部、各教科、学年の組織的連携により進学講習(通常、夏期・冬期)の充実を図る。 ・大学進学希望者を2月・3月入試まで主体的に学習させる。 (3年生2月講習の実施)	イ・「学力生活実態調査」のBランク以上が全体の55%以上[47.4%] ・共通テスト出願者100名[71名] 国公立大合格者3名[3名] 関関同立合格者(現浪合計)20名以上[18名]	イ. ・「学力生活実態調査」Bランク以上の割合53.5%(△) ・共通テスト出願者数：81名(△) 国公立大学合格者数：2名(△) 関関同立合格者数：19名(△)	
(3) 図書活動の推進	(3)	(3)	(3)	
イ Graded Readersの活用による英語科Book Report取組みの推進	イ・Graded Readers蔵書数の充実を図り取組みをさらに充実させるとともに英語検定に積極的にチャレンジさせる。	イ・Graded Readers 3500冊[2236冊] ・GTEC受験者数650名以上[568名]	イ. Graded Readers 1942冊(△) GTEC受験者数：570名(△) 英検(準2級以上)受験者数：102名 ※合わせると ○	
ウ 国語科読書マラソン取組み推進	ウ・国語科と図書館の連携をさらに深め、学習単元の補完・補強から新しい分野へ広がる読書活動を促す。	ウ・読書マラソン継続 提出カード平均10冊 [R3：5冊]	ウ. 読書マラソン提出カード4.5冊(△)	

府立山本高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成</p>	<p>(1) 新型コロナウイルス感染症対策の徹底に向けた校内体制の整備</p>	<p>(1) 管理職、学年、担任間が連携し、迅速な個別対応をめざす。また、校内における環境衛生面の整備や啓発に組織的に取り組む。</p>	<p>(1)</p>	<p>(1) 年間通して校内の活動でクラスターを発生させることはなく、学級・学年・学校閉鎖を回避できた。 (◎)</p>
	<p>(2) 規範意識の醸成と支援体制の充実 ア 個に応じた支援体制の充実と規範意識、自主性に富んだ生徒の育成</p>	<p>(2) ア・生徒の自主・自律を育む生徒指導体制を継続し、高校生活支援カードおよび府の SC 事業との連携により個々の生徒を支援する教育相談体制の充実を図る。 (教育相談委員会の活用) ・いじめの未然防止、早期発見・早期解決のため、教職員の情報共有を図るとともに、「いじめ対策委員会」を中心に組織的に対応する。 ・全教員の共通認識の下で、一般的な生活指導を継続し、生徒の安全確保、遅刻者数の減少に努める。</p>	<p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度 66%[63.5%] 気軽に相談できる担任以外の先生の存在肯定率 50%[48.1%] 教育相談委員会の月 1 回以上の開催 [13 回] ・生徒向け学校教育自己診断における人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率 95%[94.6%] いじめ対応における教員の真剣な対応肯定率 90%[88.8%] ・年間遅刻者数 5%減：880 回以下 [934 回]</p>	<p>(2) ア. 学校教育自己診断結果より ・生徒指導納得度：72.5% (◎) ・相談できる先生の存在肯定率：58.8% (○) ・教育相談委員会開催：13 回 (○) ・トラブルが少なく落ち着いた環境肯定度 92.9% (△) ・いじめ対応における真剣さ肯定度 89.8% (△) ・年間遅刻者数：1104 回 (△)</p>
	<p>(3) 特別活動等を通じた自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上 ア 生徒会活動の活性化と学校行事等の充実 部活動のさらなる活性化に向けた取り組みの推進</p>	<p>(3) ア・生徒会執行部、生徒各委員会の組織化を図り生徒会行事等を通じ生徒の自治意識を育てる。 ・部活動体験入部期間の延長と複数化を図り、自己の成長につながる自発的活動の一環となるよう定着させる。 ・近隣中学校との部活動交流を促進する。(技術指導・合同練習)</p>	<p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度 92%以上 [91.1%] ・生徒向け学校教育自己診断における部活動満足度 75%[62.2%] 部活動加入率 72%[70%]</p>	<p>(3) ア. 学校教育自己診断結果より ・学校行事満足度：93.2% (○) ・部活動満足度：63.2% (△) ・部活動加入率：70% (△)</p>
	<p>イ 業務全般を見直し、働き方改革を推進する</p>	<p>イ・ノークラブデーや全庁一斉退庁日など「働き方改革」の主旨を踏まえ、メリハリのあるバランスのとれた部活動指導体制を構築する。</p>	<p>イ・ノークラブデー、全庁一斉退庁日の徹底 下校指導当番の継続実施</p>	<p>イ. 働き方改革 ノークラブデー、一斉退庁日の設定 下校指導当番の割り当てによる一般生徒の 5 時下校を促している。</p>
	<p>(4) 総合的なキャリア教育・人権教育の充実 ア 高大連携・企業連携を盛り込んだキャリアプランによるキャリア教育の充実</p>	<p>(4) ア・キャリアプランに基づいた取組みを進め、適切な進路情報の発信により自ら主体的に進路決定できる生徒を育てる。 進路選択のため、生徒のニーズに応じた大学見学会（2 年生/7 月）を実施する。</p>	<p>(4) ア・キャリアプランの策定 ・生徒向け学校教育自己診断における進路情報満足度 95%[93.6%]</p>	<p>(4) ア. キャリアプラン ・進路情報満足度：93.2% (△)</p>
	<p>イ 外部人材の活用によるキャリア教育の実践 ウ 3 年間を見通した人権教育の実践と充実</p>	<p>イ・同窓会の協力のもと学年ごとに「先輩に学ぶ」企画を実施する。 ウ・人権教育計画やいじめ防止基本方針に基づき、人権教育委員会・教育相談委員会を中心に人権教育を計画・推進する。 特に SNS とのつきあい方についての講演会を実施し、情報社会に対応できるようにする。</p>	<p>イ・生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会肯定率 90%[88.5%] ウ・生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度 88%[85.9%] 命の大切さを学ぶ機会度 82%[80.7%]</p>	<p>イ. ・進路や生き方を考える機会肯定度 89.4% (△) ウ. ・人権の大切さを学ぶ機会肯定度 88.4% (○) ・命の大切さを学ぶ機会肯定度 81.2% (△)</p>

府立山本高等学校

<p style="text-align: center;">3 地域連携・交流の確立と伸長</p>	<p>(1) 地域交流の拡大と深化による生徒育成の取組み</p> <p>ア 支援学校、近隣の保育園、幼稚園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動の促進</p> <p>イ 学校説明会、中学校訪問のさらなる充実</p> <p>ホームページの改訂</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒会、部活動、授業などを通じた八尾支援学校、近隣の子ども園、小・中学校との交流をさらに充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や諸施設との交流やボランティア活動への参加をさらに積極的に実施する。(地域の施設等での出張演奏等) ・それぞれの活動の一般生徒への広がりと広報(周知)による認識を高める。 <p>イ・本校のアドミッションポリシー(求める生徒像)が中学生、保護者に明確に伝わるよう中学や学習塾訪問、学校説明会を通じて、積極的・効果的な情報発信に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見やすく改訂したホームページを活用して、より活発な情報発信に努め、伝わりやすさを追求する。 また、緊急時にはPTA連絡メールを活用し、迅速な対応をこころがける。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりの多さ肯定率 30%[24.1%]</p> <p>近隣の学校との交流の多さ肯定率 30%[23.6%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動成果の披露の機会を増やす。集会時の表彰披露、校内掲示等の実施 <p>イ・学校説明会4回以上実施 参加者1100名以上[1048名]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問30校以上(出前授業含む) [R3:10校] ・学習塾訪問25校以上(ポスター・パンフレット配布) [R3:25校] <p>保護者向け学校教育自己診断 ホームページは役立っている肯定率 75%[66.6%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりの多さ肯定度 26.7% (△) ・近隣校との交流機会肯定度 20.9% (△) <p>イ・学校説明会4回実施 参加者数:1855名 (○)</p> <p>中学校訪問回数:12校 (△)</p> <p>学習塾訪問回数:21校 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPは役に立っている肯定度 67.4% (△)
--	---	--	--	---